

Ⅱ-10 緑視率調査

1. 緑視率の現況

	(R5)
○緑視率	13.4%
○みどりを増やしたい場所	8.9%

みどりの新たな指標として、区内 90 箇所（3 区分 8 分類）の緑視率調査を行った。

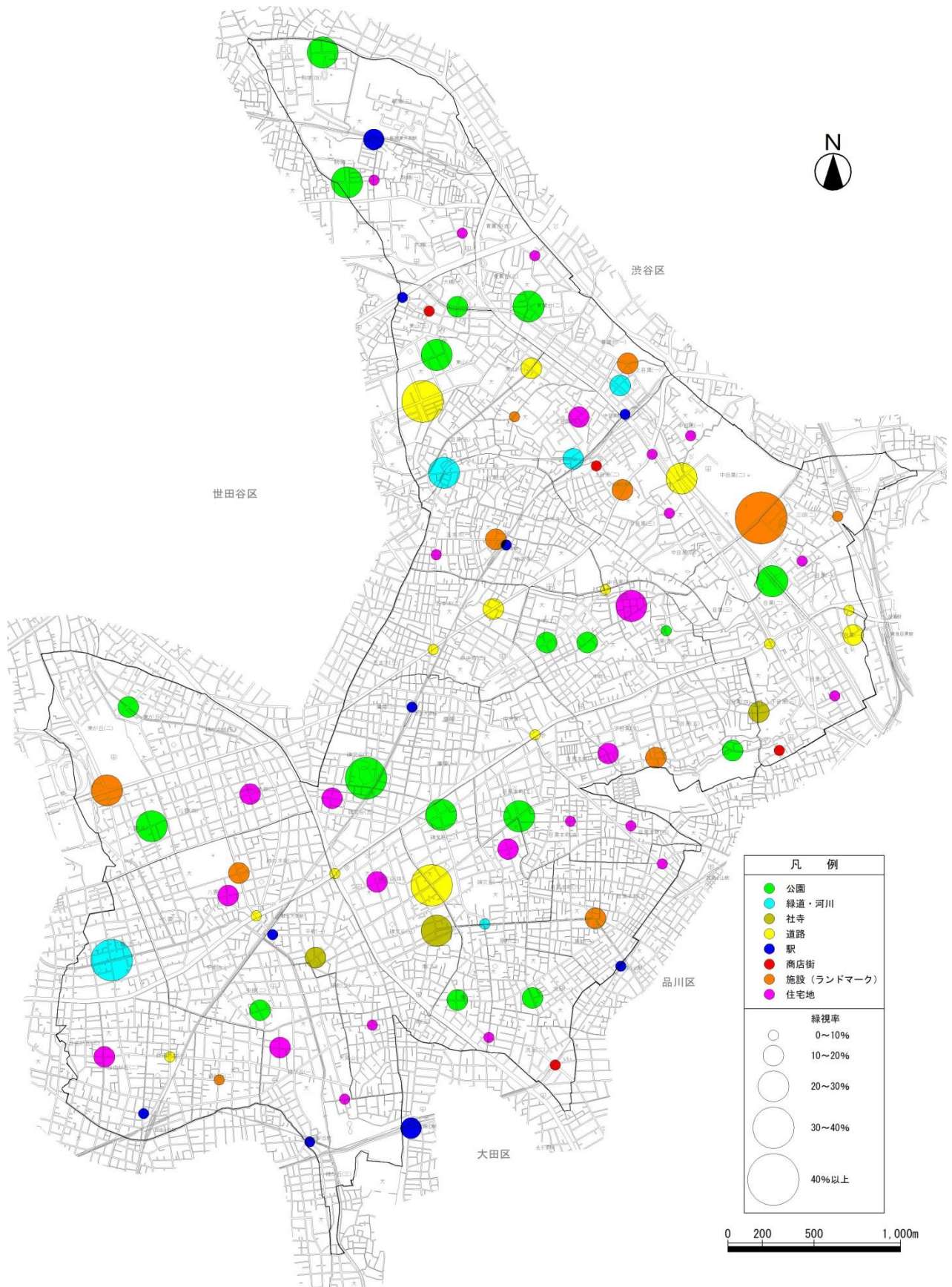
緑被率が上空から見た平面的な緑被面積を測るのに対して、緑視率は人の視野に占める緑被面積を測るものである。人が目で見てみどりが多いと思うのが 25%以上(国土交通省 2005(平成 17)年都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実験調査より)であり、区として目指していくものである。

緑視率の現況を表Ⅱ-10-1に示す。区の緑視率は 13.4%であった。みどりの区分では、みどりの拠点が 20.1%、みどりを増やしたい場所が 8.9%、その他の場所が 11.0%であった。みどりの拠点がみどりを増やしたい場所より大きく差があることが分かった。また、細分類では、緑道・河川がもっとも高く 20.8%、公園が 20.2%、社寺が 18.0%と続く。低い方では、商店街がもっとも低く 3.4%、駅が 4.9%で、当然ながらみどりを増やしたい場所である。

緑視率分布図を図-10-1に示す。

表Ⅱ-10-1 緑視率の現況

みどりの区分	細分類	箇所数	緑視率 (%)
みどりの拠点	公園	18	20.2
	緑道・河川	5	20.8
	社寺	3	18.0
	みどりの拠点全体	26	20.1
みどりを増やしたい場所	道路	14	13.3
	駅	10	4.9
	商店街	4	3.4
	みどりを増やしたい場所全体	28	8.9
その他の場所	施設(ランドマーク)	11	16.3
	住宅地	25	10.3
	その他の場所全体	36	11.0
区全体		90	13.4



図II-10-1 緑視率分布図

2. 用途地域別の現況

○緑視率が高い用途地域 低い用途地区	(R5) 第一種中高層住居専用地域 近隣商業地域
-----------------------	--------------------------------

用途地域の緑視率の現況を表Ⅱ-10-2に示す。

第一種中高層住居専用地域(18.6%)の緑視率が最も高く、第一種低層住居専用地域(16.5%)、第二種住居地域(16.2%)と住居系で続いている。最も低いのは、近隣商業地域(4.8%)で、商業地域(5.5%)と低くなっている。

住居系の緑視率が16.4%に対して、商工業系が6.9%と約10%の差がある。

表Ⅱ-10-2 用途地域の緑視率の現況

用途地域		箇所数	緑視率 (%)
住居系	第一種低層住居専用地域	33	16.5
	第一種中高層住居専用地域	16	18.6
	第二種中高層住居専用地域	2	9.5
	第一種住居地域	8	13.0
	第二種住居地域	3	16.2
住居系全体		62	16.4
商工業系	近隣商業地域	11	4.8
	商業地域	12	5.5
	準工業地域	5	15.0
商工業系全体		28	6.9
区全体		90	13.4